

平成 27 年度 第 3 回 マザーレイクフォーラム運営委員会 議事録

日時	平成 27 年 (2015 年) 11 月 12 日 (木) 18:15~20:00	
場所	滋賀県庁北新館 5-C 会議室	
出席者 【幹事委員】	井手 慎司	滋賀県立大学環境科学部
	小松 直樹	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	佐藤 祐一	琵琶湖環境科学研究センター
	沢井 進一	認定 NPO 法人びわこ豊穰の郷
	中村 満	湖南・甲賀環境協会/NPO びわ湖環境
	野田 晃弘	NPO 法人蒲生野考現倶楽部/琵琶湖・淀川流域圏連携交流会
	平山 奈央子	滋賀県立大学環境科学部
	藤田 知丈	暮らシフト研究所
	松沢 松治	びわ湖の水と地域の環境を守る会
	村上 悟	NPO 法人碧いびわ湖
	山口 美知子	滋賀地方自治研究センター
出席者 【一般委員】	石河 康久	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	川崎 竹志	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	小林 泉	滋賀県理事員
	重森 俊一	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	三和 伸彦	滋賀県化学・環境行政職員同友会
	望月 孝幸	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
	岡田 英基	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生室
	大菅 博樹	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生室

※今回欠席：【幹事委員】川端隆弘（公益財団法人淡海環境保全財団）、中野 隆弘（びわ湖エコアイデア倶楽部）【一般委員】池田勝（こどもと自然の研究所）、大山明彦（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）、佐々木和之（環境フォーラム湖東）、辻博子（一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク）、堀彰男（滋賀県魚のゆりかご水田プロジェクト推進協議会）、森俊彦（滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課）

今回の決定事項（要約）

- ・ 「びわ湖との約束」については、昨年度の 7 か条に今年度のキーセンテンスを追加し、再構成する形で検討する。
- ・ 「近江さんすい」（滋賀県河港砂防協会、季刊）に見開き 2 ページのマザーレイクフォーラムコーナーを原則毎号掲載していただくことになり、秋号に 1 回目の記事が掲載された。
- ・ マザーレイクフォーラムの非公式キャラクター「あゆむくん」を含む滋賀県関連のキャラを使った LINE スタンプを制作・頒布する。
- ・ 地域連携 WG では、びわ湖保全活動にかかる課題の解決に資するため、多様な主体の協働を加速するコーディネート事業を年度内にスタートさせる予定。
- ・ 寄付金の使途として、今年度は、上記コーディネート事業および MLF パンフレット制作に充てる方向でさらに検討を進める。
- ・ 琵琶湖再生法について、市民など多様な主体との連携を軸にした ML 計画と国の方針が乖離しないよう、しっかり現状を把握し、注視していく。

## 1. 各 WG からの報告

### (1) びわコミ WG

- ・アンケート結果や各委員から事前に寄せられた意見等をもとに、第 5 回びわコミ会議の振り返りを行った。
- ・今年度は参加者の少ないテーブルがあり、一部統合するということがあった。しかし、最初からテーブル数を少なめにしておいて、人数が多いテーブルを分割するのはさらに困難である。人数が多いよりは少ない方が話しやすいため、来年度もテーブル数は大きく変えない方針でいくこととする。
- ・「びわ湖との約束」については、昨年度の 7 か条に今年度の 14 のキーセンテンスを追加し、項目名および具体的内容という形で再構成することを検討する。佐藤作成の素案をベースに、川本勇さんらとの協議を呼び掛けていく。
- ・「びわ湖との約束」が今回のように拡充されると、発表を依頼する団体やコミットメントを検討するうえでも参考になるし、約束の実施状況をフォローしやすくなる。また、ML21 計画では難しかった MLF 登録団体・個人の活動内容との対応づけについても、登録時に記載してもらうなど、情報があがってくる仕組みを考えていけないか。

### (2) Web サイト WG

- ・MLF の目的や活動状況を分かりやすく整理・公開・記録する手段として、滋賀県河港砂防協会が発行する季刊誌「近江さんすい」に、原則毎号、見開き 2 ページのスペースをいただいて、運営委員が交代で記事執筆を担当、掲載していく。
- ・今年秋号には、佐藤が作成した記事が既に掲載済み。次の冬号は藤田が担当。
- ・より広い層の県民にびわ湖に関わるメッセージを伝える手段として、「LINE スタンプ」を作成・頒布する。以前作成した、鮎をモチーフにしたマザーレイクフォーラムの非公式キャラクターを「あゆむくん」と名付け、このキャラのほか、流域治水対策のキャラクター「ちっすい君」、下水道のキャラクター「げっすいー」も使った LINE クリエイターズスタンプを年度内に完成・登録する。

### (3) 地域連携 WG

- ・今年度第 1 回運営委員会で提案した「活動支援マッチングサポート事業」について、7 月、8 月に実施した WG での議論の経過や、びわコミ会議の「連携」テーブルでの議論を踏まえ、びわ湖保全活動に関わる連携支援事業を試行したい。公募等により今年度中に 2 件程度の支援対象団体を選定し、コーディネーターを配置して支援にあたる。
- ・びわ 100 からの寄付金を、この支援活動にあたるコーディネーターへの経費として活用したい。
- ・協働、連携のコーディネートにも様々なケースが考えられる。もう少しフォーカスを絞る必要があるのでは。
- ・寄付金の活用・管理にあたり、会計処理をきっちりする必要がある。
- ・公募すべきかや予算面など、今後さらに WG で内容を詰める。

## 2. その他

### (1) びわカンゴルフコンペ寄付金の使途について

- ・びわカンゴルフコンペより、マザーレイクフォーラムに10万円の寄付をいただいた。
- ・現在、マザーレイクフォーラムの概要を説明できる統一の資料が存在しないので、この寄付金を活用してパンフレットを制作したい。デザインは藤田が担当し、年度内完成をめざす。

### (2) 「淡海の川づくりフォーラム」との連携強化について

- ・川づくりフォーラムでMLF賞を受賞した団体には、びわコミ会議で発表やテーブル担当をしてもらうことを公表する。
- ・川づくりフォーラムの参加団体に対し、MLFの登録団体になってもらえるよう案内する。
- ・「川づくりフォーラム」として、びわコミ会議にパネル出展してもらう。
- ・MLFから村上委員が川づくりフォーラムの全体選考委員として参画する。

### (3) WGの再編について

- ・曼荼羅WGは実質動いていないため、WebサイトWGまたは地域連携WGに吸収合併したうえで、登録団体の活動の見える化をさらに進める方向で調整する。
- ・WebサイトWGは、facebookや「近江さんすい」等、Webサイト以外の媒体にも関わっており、「広報WG」等に改名することを検討する。
- ・びわコミ会議に関しては、企画の骨格はWGで議論するが、細部の具体的な協議は運営委員会に委ねたい。

### (4) 琵琶湖再生法について

- ・市民など多様な主体との連携を軸にしたML計画と国の方針が乖離しないよう、しっかり現状を把握し、注視していく。

－ 以上 －